

聖書日課 『からし種』 2022.6.26-7.3

<p>6月26日 (日) Iヨハネ 2章</p>	<p>「愛する者たち、わたしがあなたがたに書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い掟です。この古い掟とは、あなたがたが既に聞いたことのある言葉です」(7節)。主イエスが伝えた神の愛は、旧約の時代から変わらないもの。旧約聖書と新約聖書を貫いて流れているものに希望をいただきたい。</p>
<p>27日 (月) Iヨハネ 3章</p>	<p>「これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです」(19-20節)。神に愛される資格もない人間でも、神の子として生かされている。「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦」(詩編46・2)と賛美しつつこの週を歩みたい</p>
<p>28日 (火) Iヨハネ 4章</p>	<p>「愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです」(18節)。主の「愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください」(16節)る。不安や恐れがあっても、神がわたしたちのうちにとどまってくださいるので、私たちには生きる希望が与えられていることを覚えたい。</p>
<p>29日 (水) Iヨハネ 5章</p>	<p>「わたしたちは知っています。神の子が来て、真実な方を知る力を与えてくださいました。わたしたちは真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内にいるのです。この方こそ、真実の神、永遠の命です」(20節)。聖書が私たちに示してくれるイエス・キリストが私たちと共に今も生きてくださっていること、神の希望を指し示し続けてくださっていることに感謝して。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.6.26-7.3

<p>30日 (木)</p> <p>Ⅱヨハネ</p>	<p>「父である神と、その父の御子イエス・キリストからの恵みと憐れみと平和は、真理と愛のうちにわたしたちと共にあります」(3節)。聖書が示している真理は、私たちの信仰のあるなしに関わらず、すでに私たちと共にある、という言葉はなんと大きな励ましだろうか。すでに、キリストの恵みが私たちの内側にあり、私たちを生かし続けてくださっていることを覚えたい</p>
<p>7月1日 (金)</p> <p>Ⅲヨハネ</p>	<p>「書くことはまだいろいろありますが、インクとペンで書こうとは思いません。それよりも、近いうちにお目にかかって、親しく話し合いたいものです」(13-14節)。文字で何かを伝える限界がある。人に言われても、自分が経験してみなければ、本当に味わうことはできない。神からいただくものを「自分で食べて、自分で味わ」(コヘレト2・25)うことが大切なのだろう</p>
<p>2日 (土)</p> <p>ユダ</p>	<p>「わたしたちの救い主である唯一の神に、わたしたちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、永遠にいつまでもありますように、アーメン」(25節)。私たちが非のうちどころのない者として、神の前に立てるようにと取り計らってくださる主は、この世界ができる前から、そして今も、またこれからも私たちと共にいてくださる。</p>
<p>3日 (日)</p> <p>黙示録 1章</p>	<p>「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府(よみ)の鍵を持っている」(17-18節)。私たち人間にとって死は棘(とげ)であり、私たちの心を支配する大きな力である。しかし死を打ち破り、その暗闇の支配から私たちを救い出された方が今日も生きて働き、私たちを礼拝に招かれる</p>